

# Vol.52 / 新春号

平成27(2015)年2月1日発行  
(年3回7・11・2月発行)

ひま

## 年頭挨拶

日農工会長  
経済産業省 製造産業局長・産業機械課長  
農林水産省 技術普及課長

## ミャンマーの農機市場報告

## ベトナムの国際農業展示会出展報告

## 新社長の紹介

わゆ

# 日農工会報



表紙撮影 鈴木継徳さん

CONTENTS

 年頭挨拶

年頭のご挨拶 (一般社団法人日本農業機械工業会会長 山岡靖幸)	1
年頭に寄せて (経済産業省製造産業局長 黒田篤郎)	2
年頭所感 (経済産業省製造産業局産業機械課長 佐脇紀代志)	3
年頭所感 (農林水産省生産局農産部技術普及課長 柳 浩行)	4

 ミャンマーの農機市場報告

(経済産業省・JAPANブランド育成支援事業) 日農工専務理事 田村敏彦	6
--------------------------------------	---

 ベトナムの国際農業展示会出展報告

(経済産業省・JAPANブランド育成支援事業)	9
-------------------------	---

 日農工だより 叙勲受章 倭丸山製作所 内山治男会長

13

 農作業安全啓発活動を推進 (第66回秋田県農業機械化ショーにて)

14

 イタリア出張報告 日農工専務理事 田村敏彦

15

 健康相談

18

 フォトギャラリー

19

 台湾・農業機械工業会との交流

22

 新社長の紹介 倭筑水キャニコム 代表取締役社長 包行良光

23

 第54回従業員功労表彰候補者の推薦について

24

「表紙」 撮影地：金沢市兼六公園

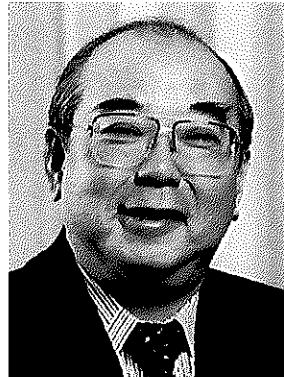
タイトル：「除雪作業」

公園の木々の除雪作業です。雪の重みで枝が折れるのを軽減しています。今年も積雪がすごいようですし、大変な作業とお見受け致しました。 新潟県 鈴木継徳さん

## 年頭のご挨拶

山岡 靖幸

一般社団法人日本農業機械工業会 会長



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年を迎えたこととお慶び申し上げます。また、平素より本会にお寄せいただきしております皆様方のご支援とご厚情に対しまして厚く御礼申し上げます。昨年は、豪雪や大型台風の来襲、火山活動の活発化など自然災害が相次いで発生した年でした。被災された皆様には改めてお見舞い申し上げますとともに、本年が災害のない平穏な年となることをお祈り申し上げます。

さて、昨年の日本経済とこれを取り巻く環境には、大きな変化がありました。昨年4月の消費税率の変更に際して、駆け込み需要が発生し、その反動から消費等が低迷、本年10月の予定であつた消費税率10パーセントへの変更は平成29年4月に延期する方針が決定されました。円相場は、3年前に付けた史上最高値（1ドル75円32銭）から一転し、昨年12月には7年半振りの120円台となり、輸出関連企業の収益環境の改善が見込まれております。また、原油価格は下落傾向が続いており貿易赤字に陥っている日本経済にとって大きなサポートになると予想されております。他方、こうした動きを消費の拡大に繋げて行くことが課題とされており、日本経済の本格的な回復については、正に急場にあるとの認識が強まっていると感じています。衆議院解散・総選挙により安倍首相の続投が決まりましたが、アベノミクスによる日本経済の再生にますます期待が寄せられているところです。

国内農業につきましては、西日本を中心に一部の地域で台風や低温・日照不足の影響を受けたものの、おおむね天候にも恵まれ、26年産水稻の作況指數は101と、平年並みの収穫となりました。こうした中にあって、米価は下落し、26年産米の10月の取引実績（農協等の相対取引価格の平

均）は、前年と比べ17%減となっています。私ども農機業界の状況を日農工統計からみますと、昨年1月から11月までの累計生産・出荷実績は、生産額が4,460億円と前年同期比101%、出荷額が4,500億円、同96%で推移しております。その内、国内向けの出荷額は、2,900億円、同90%となっています。4月の消費税率の変更に伴う駆け込み需要とその反動の影響を受け、年初の大幅な増加から一転し、4月以降は厳しい状況が続くという例年にはない動きとなりました。国内の農業構造を見てみると、依然として農業従事者の高齢化や農家戸数の減少が進むなど厳しさを増している状況にあります。こうした中で、政府は担い手の所得倍増に向けた取組みとして、農地の担い手への集積、担い手を支える新技術の開発・スマート農業の展開、生産コストの低減、農林漁業の6次産業化、フードバリューチェーン戦略の展開など「攻めの農林水産業」を開拓しており、農林水産業の成長産業化による地域経済の活性化が期待されるところであります。また、昨年は、政府の呼びかけにより官民一体のトップセールスが活発に行われています。安倍総理に同行してインドを訪問したことと皮切りにブラジル、ベトナム、ミャンマーと4カ国5回に亘り会員企業が同行しており、日本製の農業機械に期待が寄せられています。足下の状況には厳しさがありますが、農業機械は「農家の友・パートナー」としてこれから農業生産にとってますます重要になると存じます。

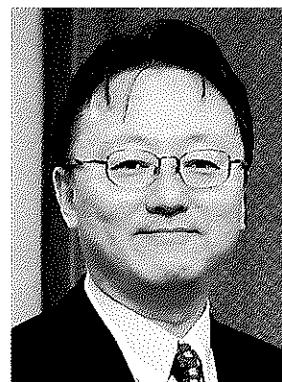
日農工におきましては、こうした動きを適確に捉え、対応していくとともに、技術・安全・環境に関する事業、貿易振興に関する事業等、各種事業について進めて参ります。

最後になりましたが、本年が日本農業にとって新たな発展に向けた明るい年になることを祈念致しまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

## 年頭に寄せて

黒田 篤郎

経済産業省製造産業局長



平成27年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

アベノミクスが始動してから約二年が経ち、経済の好循環が回り始めています。少子高齢化や、国内市場の縮小が進む一方、国内でのものづくり再評価や、ビックデータ・ITの活用等による製品や工程の革新など、ものづくり産業の新たな胎動を感じられる昨今、この好循環を確かなものにするためにも、我が国産業のいわば稼ぎ頭である製造業の競争力強化策を積極的に進めていくことが不可欠です。経済産業省としましては、以下の施策に特に注力してまいります。

第一に、少子高齢化への対応やものづくり現場の生産性向上のため、ロボットの活用を支援していきます。有識者等を集めた「ロボット革命実現会議」において、ロボットの更なる活用に向けた実効性のある計画を策定し、実用化段階にある技術の導入加速、現場ニーズに即応した市場化技術開発、広い分野で利用可能な次世代ロボット技術開発、ロボットを効果的に活用するための規制緩和及び新たな法体系・利用環境の整備、消費者保護の観点から必要となる枠組みの整備を行ってまいります。

第二に、国内市場が縮小する中、海外成長市場の獲得や、新たな産業の担い手の育成が重要です。特に地域に根付きながら海外へ展開し、グローバルなシェアを持つグローバルニッチトップ（GNT）企業を支援していきます。GNT企業や、将来GNT企業に飛躍する可能性のある全国の中堅企業に対して、オープンイノベーションの促進、

企業OBT等を活用した現場における生産性の向上、ジェトロによる海外販路開拓の支援などを積極的に行ってまいります。

第三に、円高是正や、中国・タイなどにおける人件費の上昇等を契機に、国内でのものづくりを再評価する動きがあります。こうした動きを後押しするため、我が国の立地競争力を高め、世界のヒト、モノ、カネを日本に惹きつけるため、法人税について数年で二十パーセント台まで引き下げるなど、成長志向に重点を置いた諸改革に取り組んでまいります。

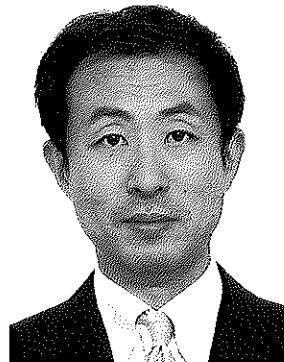
最後に、製造業の競争力向上を目指すドイツのイニシアチブであるインダストリ4.0にも見られるように、デジタル化によって、製造業を巡る状況が大きく変わって来ています。製品データを解析することによる保守サービスの高度化や、生産ラインにはりめぐらせたセンサーの情報を活用した生産の効率化などがその一例です。こうした動きに対応した新たな製造業の姿を模索していくことも重要な課題と認識し、必要な対策を検討してまいります。

末筆ながら、本年の皆様の御健康と御多幸を、そして我が国製造業の着実な発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 年頭所感

佐脇 紀代志

経済産業省製造産業局産業機械課長



平成27年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

安倍政権が発足してから2年が経過し、アベノミクスの「三本の矢」により経済の好循環が生まれ始めております。こうした動きを一過性のものに終わらせず、持続的な成長軌道につなげていくために、引き続き、成長戦略を推し進め、製造業から日本経済の再生を成し遂げていきたいと思います。

我が国は世界に先駆けて少子高齢化が進展し生産年齢人口が減少するなど、まさに課題先進国であり、世界中の国々から日本が如何に対処するのか注目を集めています。実際に、ものづくり現場においても人手不足の顕在化や生産現場の作業負荷などの課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっております。こうした課題解決の切り札として、ロボットが注目されています。人手不足やサービス部門の生産性向上を図るためにロボットを活用するとともに、これを梃子に裾野の広い機械産業の更なる成長へとつなげていきたいと考えています。現在、安倍総理の下に、有識者からなる「ロボット革命実現会議」を設置し、日本をロボットが牽引するイノベーションの拠点とするための戦略づくりを進めています。ロボット未活用分野への導入支援、現場ニーズに即応した市場化技術開発、次世代のロボット技術開発を進めながら、並行して規制緩和、必要な安全規制の構築、標準化の推進など必要な環境整備を実施してまいります。

また、中長期的に国内市場の縮小が見込まれる中、我が国経済の牽引役となり、グローバルに活躍できる多様な企業群を継続的に生み出していくことが重要です。経済産業省としても引き続き、地域経済を支えながら、国際的にも高いシェアを保持するグローバルニッチトップ(GNT)企業を支援してまいります。

併せて、我が国企業の海外展開を支援し、最先端のインフラシステム輸出を後押しし成長著しい新興国市場の獲得に向け、日本の優れた技術を世界に提供してまいります。産業機械課としても、世界最高水準の発電効率を誇る日本製石炭火力発電の輸出を推進してまいります。

さらに、法人税を成長志向型の構造に変革していく必要があります。実質的な法人税負担でみると日本企業の税負担は約30%と諸外国の企業より10%以上高い税負担となっています。数年で法人税を20%台まで下げるなど、高付加価値拠点・競争力確保に取り組んでまいります。

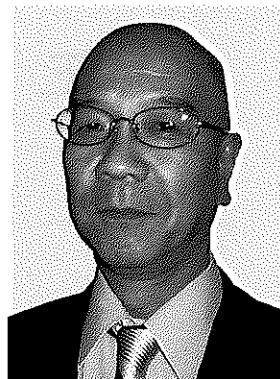
産業機械課は、これからも皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思いますので、良いアイディアやお困り事があったら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

# 年頭所感

榎 浩 行

農林水産省生産局農産部技術普及課長



新春を迎えるに当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

一般社団法人日本農業機械工業会会員の皆様方におかれましては、平素より農業機械の開発及び普及にご尽力頂き、我が国農業の発展に多大なるご貢献を頂いておりますこと、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業・農村は、農業従事者の減少や高齢化、耕作放棄地の増大等の課題が山積していますが、持続性に優れた水田や高品質な作物、美しい農山漁村など、我が国社会・経済の発展を支える大きな潜在力を有しています。

農林水産省においては、この潜在力を最大限に引き出すため、農業の成長産業化を図る産業政策と、農業・農村の多面的機能の發揮を図る地域政策を両輪として推進する「攻めの農林水産業」を展開しており、現在、昨年6月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づいて、施策の具体化に取り組んでいるところです。

また、食料・農業・農村基本法に基づく「食料・農業・農村基本計画」の見直しを進める中で、農政の中長期的なビジョンとして、施策の具体的な方向性、食料自給率目標や食料自給力の取扱い、農業構造の展望や具体的な経営発展の姿等について議論を進め、本年3月に新たな基本計画を策定することとしております。

この検討の中で、農業生産資材費の低減及び安定的な確保に向けた政策についても検討が進められておりますが、農業機械については、引き続き

関係団体の協力の下で、意見交換や連携の強化を図りながら、メーカー、流通業者等の主体的な取組を促しつつ、コスト低減を図っていくこととされているところです。

また、農地が担い手に集約され、一戸当たりの面積が増大することにより、人の力による管理には限界を生じ、ICTによる精密な管理や農業機械のロボット化による省力化が求められるようになることが予想されます。そのため、農林水産省では「スマート農業の実現に向けた研究会」を設置し、昨年3月にはロボット技術やICT導入による新たな農業の姿を描いた将来像や、スマート農業の実現に向けたロードマップ等について中間取りまとめを行ったところです。

さらに、今年6月に改訂しました「日本再興戦略2014」において、ロボット技術の導入により様々な分野における人手不足の解消、生産性の向上などの課題解決に向けて、国を挙げて取り組む方向性が示されました。

こうしたことでも踏まえて、農林水産省では、ロボット技術など革新的技術の導入により生産性の飛躍的な向上を早期に実現するため、ロボット産業等と連携した研究開発、導入実証等を平成26年度補正予算において措置したところです。

一方、農業者の安全をいかに確保するかという点も農政の重要な課題の一つです。毎年400件前後発生していた農作業中の死亡事故も、平成24年には350件にまで減少しました。しかしながら、就業人口10万人当たりの死亡事故者数は建設業

が7人に対し、農業は14人であり、他産業と比較して依然として高い水準にあります。今後は、これまで全国展開してきた「農作業安全確認運動」により、関係団体と連携して、全国での農作業安全対策の推進を図るとともに、事故を減少させてきた他産業の例を参考にしながら、リスクアセスメント手法に基づいた農作業安全対策を講じてまいります。

加えて、農林水産省が作成している「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」において労働安全に関して取り組むべき内容を示しており、農業者に対して農作業安全の強化を図っているところです。引き続きガイドラインに則したGAPの普及を進め、より一層農作業安全対策に取り組んでまいります。

最後に、農業機械化政策については、現下の我が国農業現場の抱える課題を踏まえ、平成26年11月28日に開催された第18回農業機械化分科会において、今後の農業機械化政策の基本的な考え方として、ロボット技術やICTといった異分野の有する技術やノウハウを農業機械開発に効率的に取り組むことや、地域レベルでの農業機械開発の取組を促進する仕組みの構築などの論点が示されたところです。同分科会においてこうした論点についての議論をさらに深めていただき、新たな農業機械化政策について平成27年度末を目度に取りまとめを行う予定です。

本年もこれらの課題への取り組みに格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、一般社団法人日本農業機械工業会の皆様方の益々のご健勝とご活躍、そして我が国の農業機械の更なる発展を祈念して、私の新年のご挨拶とさせていただきます。



# ミャンマーの農機市場報告

(経済産業省・JAPANブランド育成支援事業)

日農工専務理事 田村敏彦

ミャンマーには日本を含む各国からの援助が開始されているが、農業・農村の発展のために機械化が不可欠であり、稻作を中心とする日本の農業技術に対する期待が高まっている。

一方、長い国交断絶の影響もあり、これまで日本製の農業機械の導入は殆どないのが実態である。中長期には潜在的な市場として有望であり、農業の実情、機械化の状況を把握し、来年の展示会出展の可能性を探るため、現地へミッションを派遣して事前調査を行った。

## [参加者]

- ㈱タイワ精機 代表取締役社長 高井良一
- ㈱啓文社製作所 代表取締役社長 高崎道生
- ㈱ササキコーポレーション 営業企画部 佐々木孝仁
- ㈱丸山製作所 課外営業二課 白井真介
- 日農工 専務理事 田村敏彦
- ㈱事業革新パートナーズ カオ(Kwanruethai Srisongkram)

## I. 日 程

月 日	訪 問 先 等
12月 8 日 (月)	日本出発 PM:クボタ・ヤンゴン事務所

12月 9 日 (火)	AM:展示会視察 PM:農機販売店(Good Brothers')
12月 10 日 (水)	AM:実験農園 PM:移動(ヤンゴン→ネピドー)
12月 11 日 (木)	AM:Yezin農業大学 PM:農業灌漑省
12月 12 日 (金)	AM:移動(ネピドー→ヤンゴン) PM:商工会議所連合会
12月 13 日 (土)	日本到着

## II. 訪問先の主な面談者

- クボタ・ヤンゴン事務所: 松嶋所長
- 展示会(AgriLivestock'14): 主催者(シンガポールのイベント会社社長)
- 農機販売店(Good Brothers'): Aung Naing Oo企画開発部長
- 実験農園: 投資経営会社 Maha Awba Microfinance CEO Thaung Hfike
- Yezin農業大学: Myo Kywe学長
- 農業灌漑省: U Soe Hlaing農業機械化局長
- 商工会議所連合会: Moe Myint Kyaw事務局長



クボタ・松嶋ヤンゴン事務所長との面談



クボタ・松嶋ヤンゴン事務所の前にて



展示会主催者と面談



展示会会場の様子



農機販売店(Good Brothers')との面談



Good Brothers'の店舗前にて



実験農場にて



Myo Kywe学長との面談



学長室にて



U Soe Hlaing農業機械化局長との面談



農業機械化局幹部と

### III. まとめ

#### (1) 基本情報

国土面積：68万平方km、人口：5,142万人、名目GDP総額：56,300百万ドル、一人当たり名目GDP：869ドル、実質GDP成長率：7.5%（2013年）

2011年に半世紀続いた国軍支配が終わって民政移管が行われ、2015年11月の総選挙を経て、2016年3月には新政権が発足する予定である。経済解放政策として、外資規制の緩和、工業団地の造成、資源開発、インフラ整備、新空港計画などが並行して進められており、潜在能力の高い市場として海外企業のミャンマー進出が相次いでいる。政府は2030年までに一人当たりのGDPを現在の1,000ドルから5,000ドルに引き上げる計画である。義務教育制度はないが、高校進学率は3割、大学進学率は1割と教育水準が比較的高い。また、人件費が中国の6分の1と低いのも魅力である。

#### (2) 農業の機械化状況

ミャンマー農業の特徴は、季節が乾期（2月下旬～5月中旬）、雨期（5月下旬～10月中旬）、涼期（10月中旬～2月中旬）の3つに分かれており、三毛作が可能なことである。

政府は米を輸出して外貨を稼ぎたいが、米の品質が悪いので国際競争力がない。国家財政が厳しいため農家への補助金はなく、政府がいくら旗を振っても、農家は米の品質向上や量産化に興味を示さない、という悪循環に陥っている。

トラクター普及台数は、ミャンマー全体でも12,000台程度と極めて少ない。メーカー別では1位：Sonalika(印)、2位：New Holland、3位：Preet(印)である。農業灌漑省機械化局が所有する機械がネピドーのモデル農場で1,500台程使用されているが、国全体で見れば、まだまだ人と牛に頼っているのが現状である。

一方、一部の裕福な企業家が機械を導入して営農を事業として行っており、農機販売会社はそれらの顧客に海外から輸入した農機（トラクター、耕運機、収穫機）を販売しており、販売台数は年10～15%で増加している。

国全体としては、機械化はまだこれからという状況であるが、見方を変えれば、将来の潜在市場としては相当に有望といえる。

# AGROVIET 2014

## ベトナムの国際農業展示会出展報告

### (経済産業省・JAPANブランド育成支援事業)

日農工では、経済産業省の「JAPANブランド育成支援事業」の補助を受け、平成26年11月14日～17日にベトナムのハノイにおいて開催された国際農業展示会「AGROVIET 2014」にジャパンベースを出展した。

ジャパンベースは、6社の出展による農機の展示・実演と併せて、ビデオやカタログによるPRも行い、販売網の構築・拡大を目指したマーケティング活動や受注に向けた活動を行うとともに、日本の農機の販売を希望する販売店及び輸入代理店との商談会（ビジネスミーティング）を実施した。また、期間中、農業農村開発省、販売店及び輸入代理店関係者とのビジネスミーティングも開催した。



#### 1. AGROVIET 2014 概要

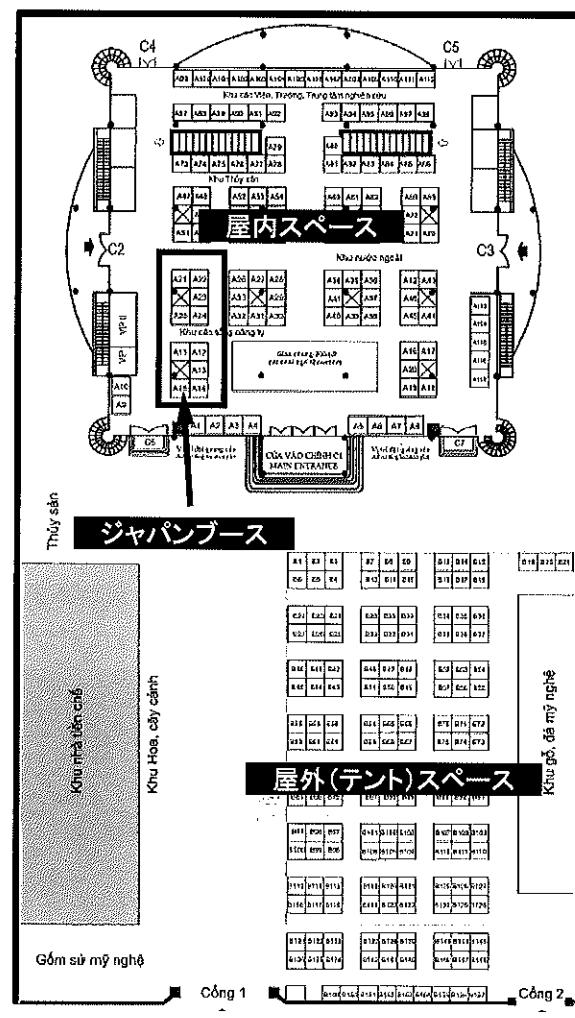
- [名称] The 14th Vietnam International Agriculture Trade Fair (AGROVIET 2014)
- [場所] The Exhibition Fair, Economic Transaction and Commercial Area (ハノイ市)
- [主催] Vietnam International Agriculture Trade Fair
- [会期] 平成26年11月14日(金)～17日(月)
- [来場者] 15,000人 (4日間／入場料無料)



オープニングセレモニー

#### 2. 日 程

11月12日(水)	午後：出発（羽田→ハノイ）
11月13日(木)	終日：搬入・組み立て作業
11月14日(金)	終日後：展示会対応 午後：セミナーの実施
11月15日(土)	終日：展示会対応
11月16日(日)	終日：展示会対応
11月17日(月)	午前：展示会対応 午後：搬出作業
11月18日(火)	午前：帰国（ハノイ→羽田）



展示会場全体図

### 3. 出展会社と出展機械

- 金子農機㈱／もみ殻循環型乾燥機
- 関東農機㈱／耕うん機、肥料散布機
- ㈱啓文社製作所／水稻用自動播種機、手押し播種機
- ㈱ササキコーポレーション／ブロードキャスター
- マルマス機械㈱／粉すり精米機、石抜き機
- ㈱丸山製作所／走行式防除機、動力噴霧機、背負動力散布機、刈払機、ポンプ、中耕除草機等  
期間中、出展 6 社のチラシ 1,200 枚を配布

### 4. 各社出展ブースの様子



同／農業農村開発大臣が視察



金子農機㈱のブース／商談の様子



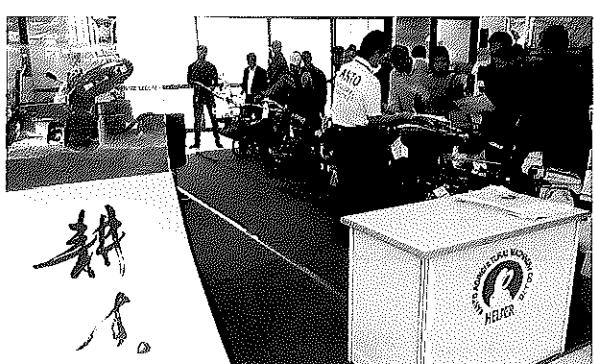
(株)啓文社製作所のブース／来場者に商品説明



同／農業農村開発大臣(Cao Duc Phat 氏)が視察



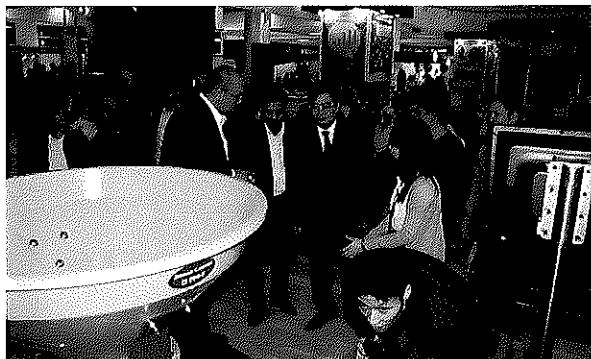
同／テレビ局の取材



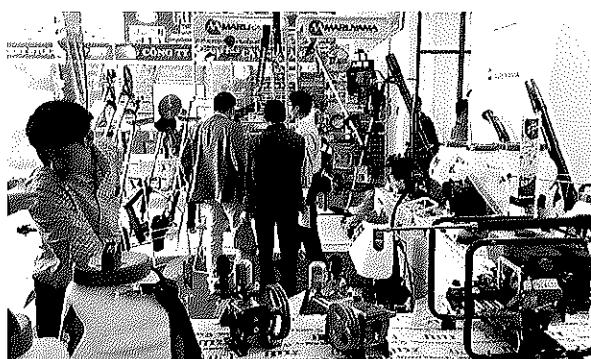
関東農機㈱のブース／来場者に商品説明



(株)ササキコーポレーションのブース／来場者に商品説明



同／農業農村開発大臣が視察



同／来場者に商品説明



マルマス機械(株)のブース／テレビ局の取材

展示会期間中の商談件数は893件にのぼり、引合件数は114件、成約件数は8件となった。

	商談件数	引合件数	成約件数
11／14(金)	183	34	3
11／15(土)	507	58	2
11／16(日)	157	12	2
11／17(月)	46	10	1
合 計	893	114	8



同／石抜機の実演

## 5. ビジネスミーティング

今回、主催者からの依頼により、農業農村開発省、販売店及び輸入代理店関係者とのビジネスミーティングも開催した。農業農村開発省のベトナム農業貿易振興センターDirector・Dao Van Ho氏の歓迎挨拶ののち、日本からは、日農工の紹介、日本の農業及び農機産業の概要、日本の農機及び出展6社から製品紹介を行った。

その後、農業農村開発省による当地輸入代理店等との個別商談会を開催した。

商談会で、Dao Van Ho氏は、国内農業の近代化を図るため、北部ハノイだけでなくベトナム全土で各種農業機械の普及促進を図っていく構想が示された。日本製品に対しては、性能面では高く評価しているものの、価格面での課題が出された。ただ、劣悪な製品による導入が進んだ場合の農業生産性が停滞することを懸念している側面もある。

今後は日農工と良い関係を築いてお互いの発展に繋げていきたいとの提案を受けたが、日本の農機の普及に期待を寄せていていることが伺えた。



（株）丸山製作所のブース／ビデオによる商品説明



ビジネスミーティング会場



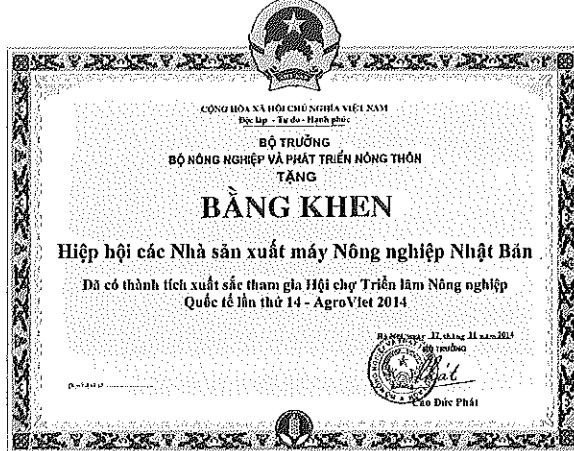
ビジネスミーティングでの個別商談会

## 6. まとめ

AGROVIETは毎年開催されているが、今回で14回目となる。同展はベトナムの農業産品（農産物、加工食品、民芸品など）の展示が主体であり、農業機械の展示はベトナムや中国企業から数社の出展であった。今回、日本から6社が出展したが、農業農村開発省大臣ほか数多くの農業関係者の来場とビジネスミーティングの開催、そして、テレビ・新聞など報道機関からの取材申込みを受けた。

また、今回の出展を知り、南部のホーチミンやカントーに駐在の日本企業の方が来場されるなど、日本の農機メーカーが出展したことに対する関心の高さを感じた。

ベトナム社会経済開発10カ年戦略では、「2020年までに工業国化を達成する。」という目標を掲げている。国民の約5割を占める農業就業人口を農業の機械化率を高めることで3割まで引き下げ、工業化の進展に伴う労働力構造の転換に対応したいとしている。



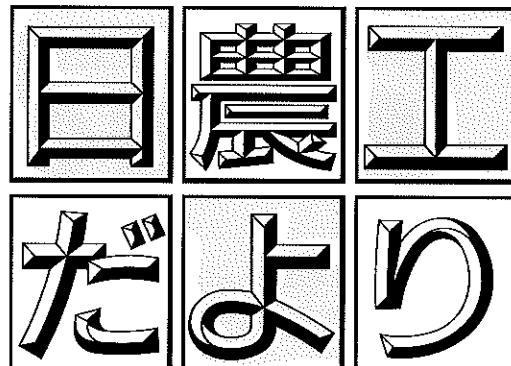
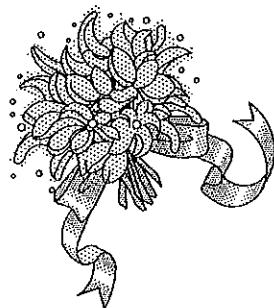
農業農村開発省大臣のCao Duc Phat 氏から  
日農工宛に授与された感謝状

ベトナム工業化戦略の推進体制である「ベトナム工業化戦略作業部会」のレポートによると現在の農機の市場規模は、耕うん機：50,000台／年、トラクタ：5,000台／年、コンバイン：5,000台／年と推定している。稲作の機械化率は、整地段階で70%、栽培段階で25%、収穫段階で30%程度と言われ、農機の普及は十分に進んでいない。

普及の課題としては、各地に農機販売店が少ない中で、実力のある良い代理店を作ることがあげられる。また、農家は購買力に乏しいため、効果ある助成制度の導入に期待したい。

ベトナム国内の農機メーカーは、大半が小規模で生産量も低い。田植機やコンバインは輸入品に頼っており、工業国入りを目指すベトナムは、農機産業の育成も重点産業の一つにあげている。今後、現地調達率アップを視野に裾野産業や充実した産業インフラの整備が加速され、企業誘致も積極的に行われるものと思われる。

今後、ベトナムの工業化に向けた産業政策が推し進められる中で、農業の近代化も重要な役割を果たすことになる。今回は北部ハノイでの展示会であったが、農業地帯である南部ホーチミンやカントーでの活動も必要であると感じた。



**(株)丸山製作所 内山治男会長 叙勲受章  
～平成26年秋の叙勲 旭日小綬章～**

平成26年秋の叙勲において、日農工の副会長でもある株式会社丸山製作所の内山治男会長が旭日小綬章を受章されました。誠におめでとうございます。氏は、多年にわたり株式会社丸山製作所において社業の発展に貢献し、顕著な功績を認められるとともに、日農工の副会長をはじめ多くの要職を歴任され、我が国産業の発展に尽力されたことが評価されて、今回の栄誉となりました。11月11日には、東京プリンスホテルでの勲章伝達式の後、皇居「豊明殿」において挙式が行われました。

**◆(略歴)**

昭和18年2月5日生

昭和40年 慶應義塾大学商学部 卒業

同 株式会社丸山製作所 入社

昭和49年 同 取締役社長室長

昭和53年 同 常務取締役

昭和57年 同 専務取締役

昭和58年 同 代表取締役社長

平成22年 同 代表取締役会長 現在に至る

この間、平成18年5月25日から平成22年5月28日まで及び平成26年5月28日から現在に至るまで、日農工の副会長を歴任されています。



令夫人と喜びの内山氏



山岡会長より表彰状授与

# 第66回秋田県農業機械化ショーにて 農作業安全啓発活動を推進

日農工事業の重点対策の一つとして、農作業安全の啓発活動を推進していますが、秋田県男鹿市で開催された「第 66 回秋田県農業機械化ショー」で農作業安全啓発活動を推進しました。

1. 開催日 平成 26 年 10 月 30 日(木)～  
11 月 5 日(水)
2. 場 所 秋田県男鹿市船川港船川字外ヶ浜  
農業機械化ショー特設会場
3. 活動内容
  - ① 農作業安全啓発のパネル展示
  - ② 低速車マークの展示と低速車マーク装着のための促進活動
  - ③ 安全啓発チラシ(3,000 部)及び農作業安全確認運動ステッカーの配布(15,000 部)
  - ④ 農機の盗難防止のためのパネル展示及びチラシの配布
  - ⑤ 動画による乗用型トラクタの片ブレーキ防止装置の紹介

⑥ 動画による自脱コンバインの手こぎ部の緊急即時停止装置の紹介

⑦ 動画による刈払機の正しい使い方の啓発

⑧ 農作業安全のぼりの掲示

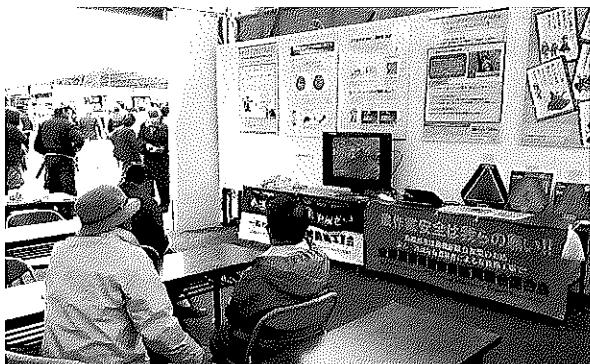
## 4. その他

全農機商連と連携して安全啓発活動を実施。

なお、今年度中に実施した安全啓発活動は以下のとおり。

- ① 第 33 回国際農業機械展 in 帯広
- ② 第 69 回岩手県全国農業機械実演展示会\*
- ③ 第 91 回山形農業まつり農機ショー\*
- ④ 第 22 回高知県農業振興フェア-農機具まつり-\*
- ⑤ (予定) 第 28 回熊本県中古農業機械展(H27.3)

注：\*の展示会は安全啓発資料の提供のみ



## イタリア出張報告



田村 敏彦

(日農工・専務理事)

2014年11月14日にイタリアのボローニャで開催されたアグリエボリューション・Economic Committee Meeting<sup>\*</sup>に出席してきました。

### 1. Economic Committee Meeting

日時：11月14日（金）9時～15時

場所：ボローニャ、eima会場内の会議室  
(FederUnacoma Office)

主催：イタリア農業機械工業会 (FederUnacoma)

参加国：米、独、仏、伊、露、土、印、中、伯、EC、日



eima展示会場入口

\*Economic Committee Meeting とは

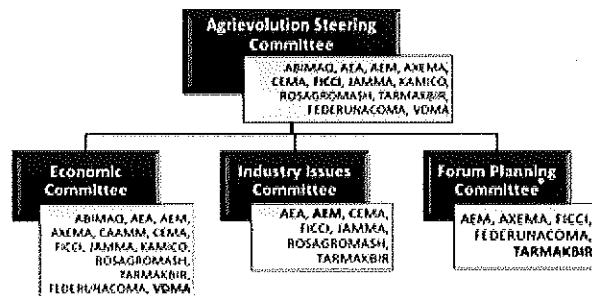
・世界13ヶ国、地域の農業機械工業会の集まりであるアグリエボリューションのSteering Committeeの下にある3つのCommitteeのうちの一つで、現在のChairは独VDMAのWiesendorfer氏。

・毎年秋に、各国メンバーが集まり、各国の農機

市場動向等について情報交換し、世界市場動向について概要をとりまとめ、プレス発表している。



会議の様子



### 2. 各国からの報告(概要)

#### ① 米国

米国の農家収入は2013年をピークに今後数年は減少見込み、農家への直接支払い補助金が減つており、農家は将来に悲観的な見方をしている。

その影響で、2014年の農機市場の需要は供給側の計画を下回っている。トラクタの輸出先としては、トルコ、英國、インドは前年より伸びているが、中国、ブラジル、フランスは大きく減っているのが2014年上半期の結果。

#### ② ドイツ

穀物、牛乳、豚などの価格低下により、農家は悲観的になっているが、穀物飼料の値下がりは畜産農家にとっては好感。農家の投資意欲は、2013年に比べれば比較的高い状況が続いている。農機市場は、好調だった2013年に比べて僅かな下落にとどまっているが、防除機や牛乳関係は良いが、収穫機は悪く、機種によりまだら模様。2015年の農機市場は、2014年より更に若干低下する見込み。

#### ③ フランス

穀物価格は下落傾向だが収量が増えた、牛乳価格は上昇ぎみなことから、農家収入は堅調に推移している。2014年の農機需要は前年比マイナスで推移しているが、2015年はさらに若干落ち込む見込み。

#### ④ イタリア

農民の60%強が55歳を超えており、農業者の高齢化は深刻な問題となっている。国内の農業機械全体の売上げは前年比0.9%増となっているが、国内市場は縮小傾向にあり、フランス、米国、独などへの輸出に依存しており、2015年もこの状況が続くだろう。

#### ⑤ ロシア

人口の26%は地方に住んでおり、経済活動人口の10%は農業に従事している。ロシアの農業は州政府の種々の支援に支えられており、穀物の輸出量は近年増加傾向にある。

2014年の農機市場は対前年比で5%減の見込みで、その内訳は輸入が49%、ロシア製が27%、国内ノックダウン製が23%。輸出も対前年比で減少している。

#### ⑥ トルコ

主力穀物類の対前年比の生産量が減少しており、その反動で市場価格は微増しているが、農家収入は増えていない。そのため農機国内市場は停滞しており、国内で生産するトラクタなどは輸出に活路を求ることになる。

#### ⑦ インド

農業の将来見通しは楽観的であり、地方での収

入は確実に上昇している。

また、農業への政府支援も増加している。国内で生産されるトラクタのほとんどは国内市場に出荷されるが、30~50HPが大多数である。

#### ⑧ 中国

CAMDA（流通販売業者団体）とCAAMM（製造業者団体）という2つの組織から報告があつたが、両者の数字に大きな差があり、データの信用性に疑問があることから、次回から両者で数字の検証をしてから報告することになった。

#### ⑨ ブラジル

農業は国の政策に大きく依存しているが大統領選挙に伴う組閣途中であり、新しい大臣の対応に期待している。

#### ⑩ CEMA（欧州農業機械工業会）

EC全体での穀物の生産量は対前年比で増加しているが、市場価格は低下傾向であり、牛乳も同じ状況になっている。農家の意識調査では、先行き不安が86%と高くなっている。農業機械市場は、2014年も2015年も対前年比5%減の見込み。

### 3. その他

・これまでトラクタの市場動向を中心に調査してきたが、他の農業機械にも調査対象を広げてはどうかとの提案が伯ABIMAQからあり、今後フィージビリティ・スタディを行うことになった。

・次回会合は、2015年10月下旬に開催予定の"CIAME trade show in China"の期間中に中国で開催したい、との提案が中国CAMDAからあり、承認された。

### イタリアの農業事情

2010年のイタリア国勢調査によると、農家戸数は約160万戸で、10年前から30%以上減少した。零細農家が激減した一方大規模農家（30ha以上）が増加した。農家1戸あたりの平均農地面積は約8haと依然として規模が小さい。北西部は15ha、南部は5haと南北で差が大きいのが特徴。

国土が南北に長く、さまざまな地形と多様な気候を有するため、多種の農産物が生産されており、主要農産物は、小麦、とうもろこし、葡萄、オリーブ等。

なお、今年は夏の長雨の影響でオリーブが不作で、質量ともに昨年を大幅に下回る模様。

## 番外編

2014年のヨーロッパは異常気象のようで、11月だというのに春のような気温で、それなりの寒さを想定して持参したダウンコートはスーツケースに入れたままでした。

ボローニヤはスパゲティ・ボロネーゼ（ボローニヤ風）の発祥の地として有名ですが、その元祖のお店がボローニヤ中央駅のそばにありました。



市の中心・マッジョーレ広場



ボローニヤ中央駅



ポデスタ宮でのAward Ceremony



イタリアの高速新線“Frecciarossa”(赤い矢)

eimaのAward Ceremonyが行われたポデスタ宮は、12世紀中庸に建てられた歴史的な建築物で、元は神聖ローマ帝国が任命した長官の館だったが、後に首長の館として使われたらしい。現在は、外観は当時の面影を残しつつ内装を綺麗に改装して、公的なイベント等に利用されている。

セレモニーの余興にイタリアでは有名だというコメディアンが出てきたが、英語通訳が漫談のスピードについて行けず、周りの大爆笑につられて作り笑いをするのはとても空しかったです。

## Q: 入浴後などにじんま疹が出て 痒くて眠れない。治療法はありますか？

〈相談者／30歳男性〉

10年ほど前から、入浴後や激しい運動のあとなどに、腕や太ももにじんま疹のような直径5mmくらいの湿疹ができるようになりました。20分ほどで消えますが、疲れていたりストレスがあるときはとくにひどく、かゆくて眠れなくなることもあります。予防や治療法を教えてください。

**A:** じんま疹の原因は、大きくアレルギー性、非アレルギー性、特発性に分けられます。

アレルギー性は、抗原(原因物質)に対し抗体がつくられていて、抗原が体内に入ると、皮膚にある肥満細胞の抗体と反応してじんま疹を形成します。抗原は食物・薬剤・植物など、経口・注射・接触などで体内に入れます。

非アレルギー性は、日光、寒冷、温熱刺激、擦過などの物理刺激による場合や、食物中のアミノ酸・薬剤のアセチルサリチル酸などによる反応性のじんま疹です。

ご質問のように運動・入浴後などのほか、緊張すると出る場合もあります。これらを「コリン性じんま疹」といいます。比較的若い年代に多く、皮膚に紅色丘疹(赤いぽつぽつした発疹)が多数出ます。体温の変化、疲れ、精神的・肉体的ストレスが加わった状態でとくに好発しますが、数十分で跡形もなく消えます。かゆみは、

ほとんど自覚症状がないものから、非常に強い場合もあります。このほか、どうしても原因がわからない慢性的に長期出没するじんま疹を特発性といいます。

じんま疹の原因検査は、問診から推測される抗原に対する血液検査で測定したり、温熱・寒冷誘発試験をします。コリン性じんま疹の診断は比較的容易ですが、背景に何か疾患が存在する場合もあるので、一度は皮膚科医に受診しましょう。

なお、小麦・えび・かになど特定の食物をとったあと、運動することによっておきる「食物依存性運動誘発性アナフィラキシー」は、ショック状態になるので危険です。

ご質問のように、日常生活に支障があるならば、抗ヒスタミン作用のある薬剤(H1受容体拮抗薬)を用いますが、すっかり消失するまでに数年かかる場合もあります。かかりつけの皮膚科医に適切な薬剤を処方してもらい、長期戦で治療をしていく必要があります。



# Photo Gallery ·



神奈川県 西村丈夫さん

タイトル: マッサン

NHKマッサンのシャーロットさん。  
年の暮れに東京証券取引所で長時間待ち、  
大納会の鐘撞き写真を撮りました。  
美人です。

奈良県 吉村圭子さん  
タイトル: もみじ

もみじの色が好きです。生える色彩、晩秋の空に癒し感が漂います。  
日本に育ち、四季があることをあらためて嬉しくおもいます。



大阪府 森田里佳子さん  
タイトル: 冬の音

芦ノ湖へいってきました。日が暮れ始め暫くすると真っ暗になりましたが湖には白鳥の足こぎボートが可愛らしく浮かび湖畔のススキはゆらゆら揺れて冬の訪れを感じました。



愛知県 田淵真子さん

タイトル: うらやましいな

某百貨店の玄関に居るライオンが、  
高級そうな生地の（絶対高そう）  
トレンチコートを着て気分最高と  
いった顔です。かっこいい！！



宮城県 佐藤研二さん

タイトル: 雪うさぎ

雪の日にうさぎがほんの少しの若葉を  
餌に寒さをしのいでいます。  
うさぎは暖かい毛皮のコートを着込んで  
いるから元気なのかな…。



高知県 山崎 博さん

タイトル: 美しい茶畠

高知県のお茶研究センターの茶畠です。山間地でおいしいお茶が栽培されるのでしょうね。車で走っていると見事な茶畠が見下ろせます。



福岡県 岡本裕二さん  
タイトル: うなぎ釣り(中州)

屋台が有名ですが中州では昔から祭りにうなぎ釣りが出店されて、なかなか釣れないからいいんですけど、釣ったらどうするの?

鹿児島県 辻 裕見子さん  
タイトル: 阿蘇の列車

阿蘇山から来た電車です。赤い鉄橋を1両電車が走る風景は美しくもちょっとコワイ?  
でもそれがたまらない。(^^)



栃木県 山脇健次郎さん  
タイトル: 横須賀ストーリー

横須賀のドブ板通りでの写真です。スカジャン、ジーパンが豊富にならび、これはマネキンデコレーションでした。ドブ板通りとは、米海軍の軍艦修理で出た鉄板くずをドブの蓋に使い、踏むとカタカタと音がする通りで、ドブ板通りと命名されたそうです。

### 投稿写真を募集しています

- ・次回夏季号の写真〆切りは平成27年5月20日です。ジャンルは自由です。
- ・フィルムカメラや、デジタルカメラで撮影した写真を、必ずタイトルとコメントを添えてご応募下さい。採用された方には記念品を送らせていただきます。

応募先:一般社団法人日本農業機械工業会 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8  
E-mail: sunflower@jfmma.or.jp

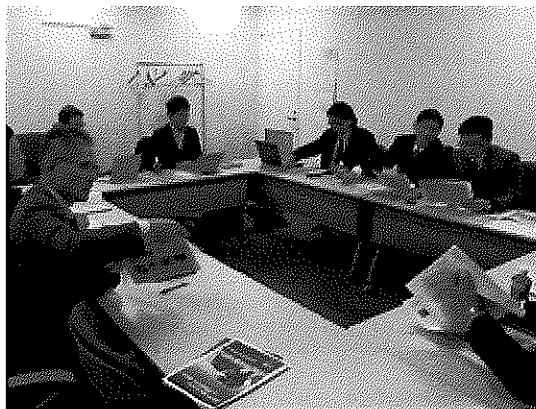
## 台湾・農業機械工業会 との交流

日農工専務理事 田村敏彦

台湾・農業機械工業会の林理事長が平成26年12月15日に来日した際、㈱タイガーカワシマの川島社長の紹介で日農工を表敬訪問された。両団体の交流は今回が初めてであり、まずは相互理解を深めるため、双方の活動状況等について情報交換を行った。

また、農業機械の輸出入データを年1回交換することとなり、日農工からは財務省の貿易統計を提供することとした。

なお、林理事長は管理機等の農業機械を製造・販売している会社の社長でもあり、工業会の理事長を永く務めている。



双方の団体活動紹介

(参考) 台湾との農業機械の輸出入実績

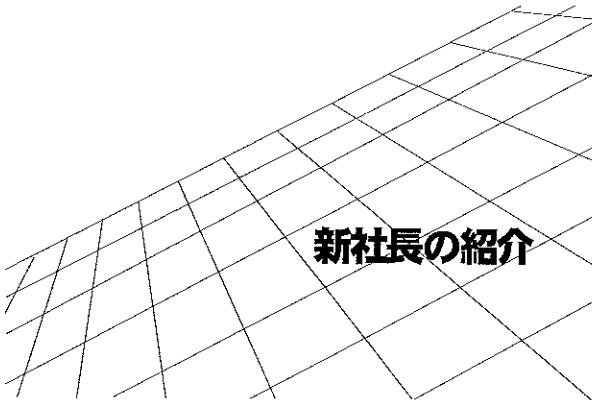
単位：千円

	輸出額	輸入額
2010年	3,711,744	2,230,934
2011年	4,242,267	2,243,939
2012年	3,782,406	2,180,421
2013年	5,115,183	2,439,167
主な機械	<ul style="list-style-type: none"><li>・コンバイン</li><li>・トラクター</li><li>・播種機、植付機</li><li>・移植機</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・耕うん整地用機械部分品</li><li>・収穫調整用機械の部分品</li><li>・その他農具</li></ul>

出典：財務省通関統計



林理事長との記念写真

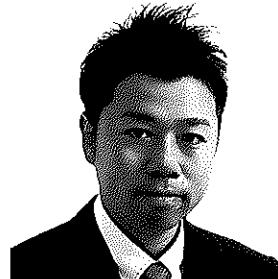


## 新社長の紹介

〈株式会社筑水キャニコム〉

包行良光(かねゆき・よしみつ)氏が1月1日付で代表取締役社長に就任されました。

包行社長の主な経歴は、平成16年3月㈱筑水キャニコム入社、平成18年4月営業本部マーケティング副本部長兼CANYCOM USA社長、平成20年4月グローバルマーケティング本部長兼CANYCOM USA社長、平成21年6月取締役就任、平成23年4月常務取締役就任、平成27年1月1日株式会社筑水キャニコム代表取締役社長にご就任。



新社長に抱負を語っていただきました。

「入社直後、アメリカの市場開拓を任せられ、一人で渡米。頼れる相手がいない所での営業活動は、非常に厳しい試練ではありましたが、この試練が今の私を作ってくれたと思っています。何とか市場を確立しアメリカに子会社として「CANYCOM USA」の設立に漕ぎ着けたことは、私の大きな自信にもなりました。企業取引において、国内・海外という垣根はすでになくなっています。他国も国内の県と同じように、一つのマーケット地域と捉える時代になっています。

社長就任にあたり、先輩方々の努力により築いて頂いた国内の磐石な経営基盤をもとに、脈々と引き継がれたキャニコム独自のものづくり、「ものづくりは演歌だ!」をもって、世界市場において他企業がまねのできない優位性を保ち、常にナンバーワンの競争力を確保していきます。

キャニコムのものづくりで世界展開するには、

グローバルにグローカルなマーケティング戦略を図っていかなければなりません。世界で戦える組織体制を早期に整えていきます。日本をマザー国とし、全社員一丸となって推し進めていけば、必ず期待される結果が出ます。私はトップとして、「組織一丸」の精神、そういう姿勢を大事に舵取りしていきます。微力ながら日本農業機械の発展に努めていく所存です。今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。」趣味は、スポーツ観戦(特にラグビー)

座右の銘は、「為せば成る」

福岡県出身、血液型はB型

昭和55年2月18日生(34歳)

家族は夫人と子供二人

(本社所在地)

〒839-1396

福岡県うきは市吉井町大字福音90-1

株式会社筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

TEL0943-75-2195 / FAX0943-75-4396

ものづくり  
は演歌だ



# information

## 第54回従業員功労表彰候補者の推薦について

第54回目を迎える従業員功労表彰の候補者をご推薦下さいますようお願い申し上げます。

### 1. 受賞者の資格・条件等

当該候補者は「従業員功労表彰要領」に定める受賞の資格・条件等を確実に充たす者であり、次の3部門とします。

- ① 製造部門 …… 製造工場、試作工場等において、品質の向上、製造の合理化等に功績のあった者
- ② 研究・開発部門 …… 研究・開発部門において、科学技術の研究、製品の開発・改良に功績のあった者
- ③ 管理・営業部門 …… 管理部門において、企業の運営・管理に功績があった者、あるいは、営業部門において、販売の促進に功績があった者

### 2. 受賞者数

受賞者は、1会員毎に1名を原則としますが、従業員300人を越える場合、又は300人未満であっても共同研究のような特別の事情のある場合は、理事会に諮り考慮いたします。

### 3. 推薦書の様式

「第54回従業員功労表彰候補者推薦書」によりご推薦下さい。

### 4. 推薦期日

平成27年2月27日(金)までに当会へ必着とします。万一、書類の提出が遅れる場合は事前に事務局までご連絡下さい。

### 5. 選考方法および通知

受賞者は、平成27年3月25日(水)に開催の第132回理事会において受賞候補者を選考の上決定します。なお、その結果は推薦者宛に文書にて通知します。

### 6. 表彰式

表彰式は、定時総会開催日(平成27年5月27日(水))に八芳園(東京都港区)において行います。

### 7. 表彰者分担金

- (1) 受賞者1名につき25,000円を表彰分担金としてご負担願い、表彰式費用および記念品代等に充てます。
- (2) 分担金は受賞確定の通知とともに請求いたします。
- (3) 受賞者が表彰式に出席する際の旅費、宿泊費等は、推薦者側でご負担願います。

### 8. 推薦書の送付先・問い合わせ先

一般社団法人日本農業機械工業会  
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8  
(担当:総務部 松山 徹)  
TEL 03-3433-0415/FAX 03-3433-1528



## 編集後記

- ▽ 学説によると、地球が誕生したのは約46億年前とのことです。約45億年前には他の天体が衝突して地球と月が分離し、約41億年前には陸と海が形成されました。約39億年前に生命が誕生し、人類(ホモ・サピエンス)が誕生したのが20～30万年前で、現生人類と同じ新人類が現れたのがわずか1～2万年前です。地球の歴史上から見ると、人類が誕生してからまだほんの一瞬しか経っていない、ということです。
- ▽ 一方、太陽も地球とほぼ同じ時期に誕生しましたが、水素を核融合させてそのエネルギーで輝いています。水素は核融合によってヘリウムになりますが、そのヘリウムを中心核付近に溜め込み、50億年後にはそのヘリウム自体が核融合を始め、その瞬間から太陽は膨張を始めます。ヘリウム核融合が始まると太陽風の威力が増大し、地球は大気が飛ばされて水が蒸発してしまうので、当然生命は消滅してしまいます。
- 学説によると、そういう状況になるのは17.5億年～32.5億年後ということですが、人類がそれまで地球上に存在しているとは思えません。
- さてさて、日々の仕事に追われて疲れたときには、冬の夜空を見上げて、地球の行く末に思いを馳せるのも一案では。足元の小さな悩みなんか吹っ飛びますよ、きっと・・・。
- ▽ 世の中には珍しい(?)趣味をお持ちの方もいるんですね。先日、山歩きをしていたら大きな不動尊の社殿の柱にお札を貼っている家族に遭遇しました。釣り用のタモ竿を改良して、先端にブラシとローラーを取り付けて、7～8mの高さの柱に自分の名前を木版刷りしたお札を貼っていました。すでに全国100ヶ所以上に貼ったとのこと。お札刷りの御利益の程は分かりませんが、地球の行く末も最後は神頼みしかないですね？！

---

**ひまわり**－日農工会報－ Vol. 52／新春号

平成27(2015)年2月1日発行

発行人／ 田 村 敏 彦

発行所／一般社団法人 **日本農業機械工業会**

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号（機械振興会館）

TEL 03-3433-0415/FAX 03-3433-1528

URL <http://www.jfmma.or.jp>

E-mail [sunflower@jfmma.or.jp](mailto:sunflower@jfmma.or.jp)

